

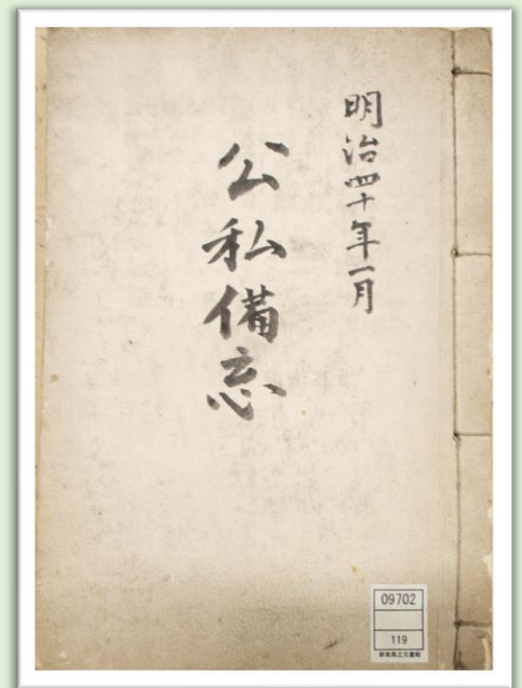
八木健次家文書

前橋藩士八木家に伝来した 1700 余点の文書群です。

八木家文書には**中世・近世初期の文書** 10 点が残されています。これらは本願寺に関わる文書が中心です。八木家の先祖八木隼人^{はやと}が本願寺家臣で、その養子権左衛門も本願寺家臣横田内膳^{ないぜん}の九男であったため、これらの文書が八木家に伝来したものと考えられます。

八木権左衛門は、延宝 7 年 (1679) 姫路藩主松平直矩^{なおのり}に仕官したとされ、子孫は主家の松平大和守家^{やまどのかみ}とともに奥州白河 (福島県) などを経て前橋に移り住みました。八木家についてはもちろん、**前橋 (川越) 藩の藩政や家臣団**を知る上で参考になる文書が数多く残されています。

八木始^{ごんだいぞく} (1844~1921 年) は、前橋藩権大属、学区取締、南勢多郡長などを歴任したのち、明治 35 (1902) 年からは旧主松平家の家令^{かれい}を務めました。彼が残した日記を含む多くの記録類には、幕末・明治・大正期の松平家の様子が記されています。萩原朔太郎の母方の祖父でもあり、朔太郎関係の文書も含まれています。



No.119 明治 41 年「公私備忘」